

資 - 警察 1
警 察 本 部
内線 5 3 5 3

「命の大切さを学ぶ教室」推進事業

【警察県民センター：予算額1,200千円】

1 事業目的

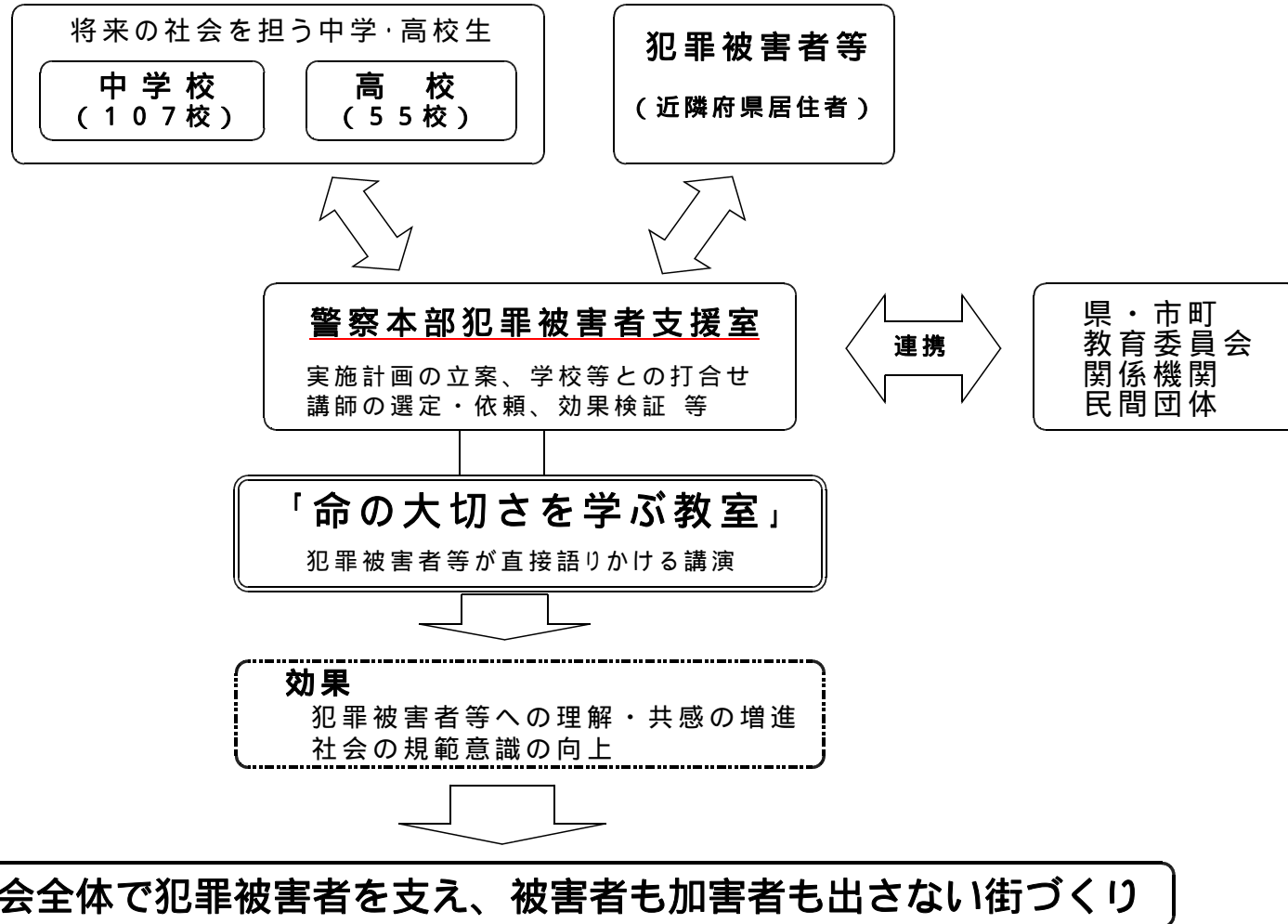
犯罪被害者等のための施策については、犯罪被害者等基本法の中で、犯罪被害の軽減・回復だけにとどまることなく、犯罪被害者等が再び平穏な生活を取り戻すよう支援することが求められています。

そのためには、犯罪被害者等を直接対象とした支援のみならず、広く国民を対象とした犯罪被害者等の実情について理解を深めるための啓発活動を展開し、社会全体に犯罪被害者等を思いやり、犯罪被害者等を支える気運を醸成しようとするものです。

2 事業内容

社会全体で被害者を支え、被害者も加害者も出さない街づくりの気運を更に醸成するため、将来の社会を担う中学・高校生を対象にした「命の大切さを学ぶ教室」を開催し、命の大切さや被害者も加害者も出さない社会を希求する思いを犯罪被害者等が直接語りかけるなど、犯罪被害者等が置かれた状況や、支援施策に対する理解と共感の増進により、規範意識の向上を図ることを目的としています。

「命の大切さを学ぶ教室」



犯罪の起きにくい社会づくり

のための「地域の絆」再生事業

【生活安全企画課・少年課：予算額4,285千円】

1 事業目的

犯罪の起きにくい社会を実現するためには、時代とともに薄れつつある地域の絆を再生強化するとともに、若者や外国人によるボランティア活動の伸長や少年警察ボランティア等の活動を支援することにより、重層的な防犯ネットワークを構築・整備し、次代を担う子どもから、若者・大人に至るまで規範（防犯）意識を更に向上させ、地域の絆を定着させることを目的としています。

2 事業内容

(1) ヤングボランティア活動支援事業（生活安全企画課）

若い世代のボランティア団体のスキルアップ、活動の活性化を図ります。

(2) 外国人防犯リーダー育成事業（生活安全企画課）

外国人によるボランティアグループを結成・育成し、他の防犯ボランティアとの交流を図りリーダーの育成を目指します。

(3) 少年警察ボランティア等活動支援事業（少年課）

少年の規範意識を確実にかつ継続的に定着させるため、非行防止教室等を活性化し、非行少年を生まない社会づくりを推進します。

犯罪の起きにくい社会づくりのための「地域の絆」再生事業

犯罪の起きにくい社会の実現
重層的な防犯ネットワークの整備、社会の絆の強化・規範意識の向上

各ボランティアの連携
(交わりの深まり)

ヤングボランティア活動支援

外国人防犯リーダー育成

少年警察ボランティア等活動支援

ヤングボランティアの
参加促進と、育成支援・
活動活性化・相互交流を促進

外国人ボランティアの
参加促進と、育成支援・
活動活性化、相互交流を促進

子ども及びその保護者、
地域住民を対象とした
非行防止教育を活性化

低年齢層の規範意識を
確実かつ継続的に定着

連携

警察・自治体・関係機関団体・事業者・県民

ヤングボランティアサミット
ボランティア交流会

外国人ボランティア
研修会

ヤングボランティア
活動支援

『けいたくんのゆる3隊』
エア着ぐるみ

外国人ボランティア
育成教材

外国人ボランティア
活動支援

非行防止啓発資料

非行防止教材・保護者用
非行防止マニュアル

低年齢少年対象
非行防止啓発資料

思いやりゾーン事業

【交通企画課・交通規制課：予算額14,000千円】

1 事業目的

全国的には、10年連続で交通死亡事故が減少していますが、本県では、4年連続減少していた交通事故死者が増加に転じ、死者全体の約半数を占める高齢者の交通事故抑止は喫緊の課題となっています。

高齢者の事故は、自宅近くの通り慣れた道路で発生している場合が多いことから、高齢者の居住地を中心としたゾーン内で集中的に交通安全対策を推進することにより、高齢者の交通事故抑止を図ろうとするものです。

2 事業内容

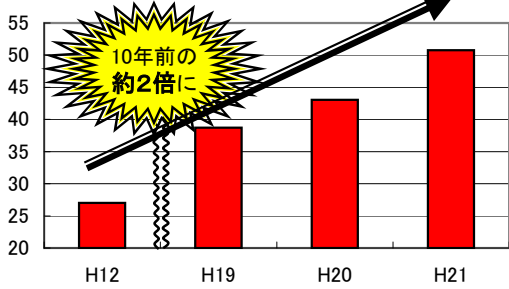
高齢者の居住実態、高齢者福祉施設、病院、交通事故の発生状況に加え、高齢者の行動範囲などを勘案して、県内12警察署管内に各1箇所、高齢者に優しい交通環境区域「思いやりゾーン」を設定します。

ゾーン内の高齢者等から、「危険箇所」「行動パターン」等を聴取してヒヤリハットマップを作成し、集中的、効果的な交通安全対策を実施することで、高齢者の交通安全意識の向上と、交通事故抑止を図ろうとするものです。

思いやりゾーン事業について

高齢者の交通事故の特徴

死亡事故の約半数は高齢者



- 1 歩行中、自転車乗用中の死者は高齢者全体の62.5%
- 2 歩行中、自転車乗用中の死傷者は自宅から1km以内で多発
歩行者 72.2%
自転車 70.7%
- 3 事故遭遇時の通行目的は、近隣の買い物、知人宅等の訪問 61.0%

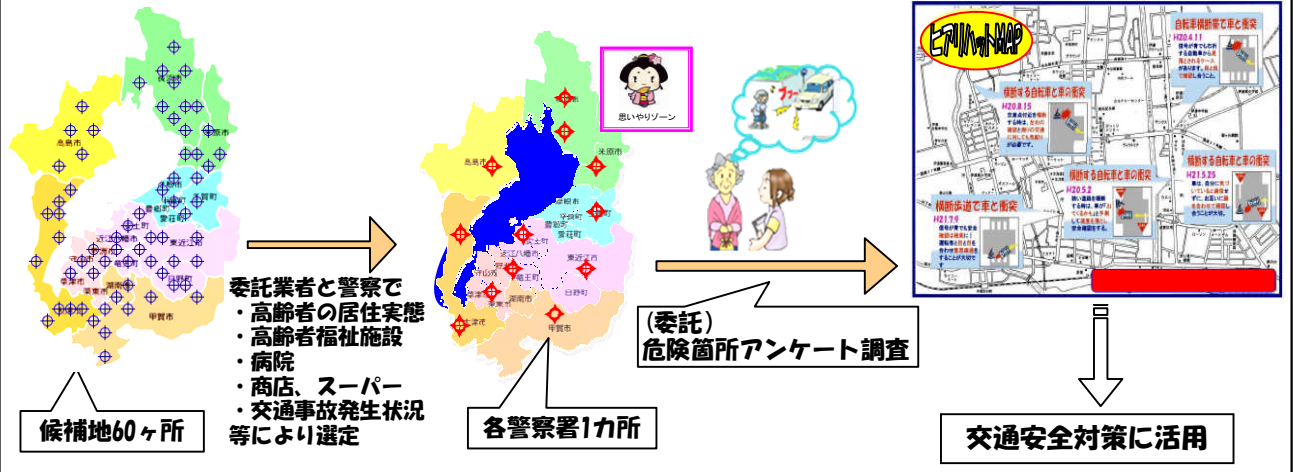
自宅付近で多発



高齢者の居住地を中心とした活動エリアに対する交通安全対策！！

思いやりゾーン(居住地、活動エリア対策)

(委託) ヒヤリハットマップ作成



思いやりゾーンでの集中的交通安全対策

- 危険箇所交差点横断体験講習
- 自転車シュミレーター機器体験講習
- 三世代交流交通安全教室
- 訪問事業 (大学生、交通安全協会女性部等) et c.



安全体感等・検証



今後の交通事故防止対策

高齢者の交通事故抑止